

地歴 問

地理歴史等

平成 27 年度 (前期日程)

注 意 事 項

- 1 「解答はじめ」というまで、この問題冊子を開いてはいけません。
- 2 問題は 1 冊(本文 25 ページ、下書用紙 2 枚)で、解答用紙は 1 枚です。下書用紙は問題冊子の中に挟み込んであるので、引き抜いて使っても構いません。なお、問題冊子と下書用紙は持ち帰って構いません。
- 3 すべての解答用紙に受験番号を書きなさい。なお、受験番号は、次の要領で明確に記入すること。

(例) 受験番号 50001 番の場合 →

5	0	0	0	0	1
---	---	---	---	---	---

- 4 1) 世界史, 2) 日本史, 3) 地理, 4) 倫理, 政治・経済, 5) ビジネス基礎, 以上 5 科目のうちから 1 科目を選んで答えなさい。さらに選択科目の番号を受験番号の隣の欄に書きなさい。

(例) 2) 日本史を選んだ場合 →

					2
--	--	--	--	--	---

- 5 解答は、解答用紙の所定の位置に横書きで書きなさい。他のところに書いても無効になることがあります。

また、字数などの指示がある場合は、その指示に従って書きなさい。なお、字数制限がある場合、洋数字及びアルファベットに限り、1マスに2文字入れることができます。それ以外の句読点や問題番号には1マスを使用すること。ただし、例えば「問1」ならば「1」とのみ書いても構いません。

世界史

I 次の文章を読んで、問いに答えなさい。

「聖なるクリスマスの日に、王がミサのために至福の使徒ペテロの墓前での祈りから立ち上がったとき、教皇レオは冠を彼の頭に戴せた。そして、彼はすべてのローマ人民により歓呼された。「至聖なるカール、神により戴冠されたる偉大にして平和を許すローマ人の皇帝に命と勝利を！」と。そして、讃歌ののち、彼は教皇から古き皇帝の慣行に従った崇拜をうけ、それ以来、彼はパトリキウスの称号を止めて、皇帝と呼ばれた。」(『フランク編年史』より)

問い この文章の中で「ローマ人の皇帝」とされた「彼」(カール)は、ヨーロッパ世界にとって重要な存在とされる。彼はローマ滞在中、聖ペテロ教会でのクリスマス・ミサに出かけ、この文章によって伝えられる出来事を経験した。

カールは、この時なぜローマに滞在していたのか、また、なぜ「ローマ人の皇帝」としてローマ人民により歓呼されたのか。8世紀後半におけるキリスト教世界の情勢のなかで述べるとともに、この出来事がヨーロッパの歴史に与えた影響について説明しなさい。(400字以内)

II ともに1967年に発足したヨーロッパ共同体と東南アジア諸国連合は、地域機構として大きな成功をおさめた。両機構の歴史的役割について、その共通点と相違点を説明しなさい。(400字以内)

Ⅲ 次の文章は、18世紀末における清朝の対外関係の一端を伝えるものである。これを読んで、問いに答えなさい。

1793年9月16日(水) 一行の^{だったん}韃靼滞在期間もいよいよ残り少なくなったので、皇帝への暇乞の挨拶に、今朝、大使は参内した。但しこの時は前回のような正式な①参内ではなかった。

この時にも、王宮内ではある種の公式要談が行われた。随行した幹部連の腹藏のない話をまとめると、この時の会談の内容はおおよそ次のようなものである。

皇帝は、英国といわずどこといわずおよそ外国を相手に成文の条約による契約に署名する、従ってそういった契約に應ずるといふことには、のっけから絶対反対だったのである。皇帝の言分はこうである、——およそ外国と条約関係に入るといふことは、この国の伝統的国是にももとり、事実支那古来の法律にも背くことになる。が、自分としては、英国国王並に英国国民に対し高い尊敬の念をもっていることは申すまでもない。事実、当方としても、できうべくんば英国に対し、現にこの国と通商関係にある他のどのヨーロッパの強国よりも一層大きい通商の便宜を与えたいのは勿論であるし、また今回の会談の眼目と思われる例の広東来港の英国船に課する課税問題といふことでも、当方としてはこれに対して新しい取極めに應ずる用意もないではない。が、そのまた半面には、自分としては、自国民の真の利益を絶えず擁護すべき地位にあるのであって、これだけは絶対に犠牲にするわけにはいかない。従って自国民の利益が少しでも犯される気配があれば、いつでも相手国の如何を問わずその修好上の便宜を撤回しなければならない。で、かりに英国が、この国と現に通商関係にある他の国以上に有利な便宜を与えられているとしても、その通商行為の如何によっては、これまたその権利を喪失すべきことにならぬとも限らない。自分はこの際、これだけのことははっきり言明しておきたい。で、これを自分が理解・実践するには、成文の証書も署名も一切その必要がないのである。

(イーニマス・アンダースン著・加藤憲市訳『マカートニー奉使記』より引用。但し、一部改変)

問い 下線①の皇帝の名前を記し、その皇帝によって語られた清朝の対外関係の特徴とその崩壊過程を説明しなさい。(400字以内)